

<定山溪中学校 教育サポート報告>

山崎 淳

【教育の現場】

定山溪中学校1年生 1クラス12名（男7名、女5名）

平成22年6月3日 午後9:50～10:40（2時間目）

総合学習（パワーポイント）

タイトル「私と定山溪」

担当：山崎 淳

サポート：人見 美哉

【授業サポートの背景】

例年と同様、翌日の豊平峡ダム・発電所の現地見学に先立って、事前にダムについての知見をフォローする、といった要請であった。

【授業のすすめ方】

昨年度の授業内容を継承。ダム見学前の授業ということ意識しつつ、また社会科の授業であるとのことなので、以下の点に絞って30分程度パワーポイントで説明した。

1. 定山溪近辺のインフラ（鉄道・国道・ダム・橋）の変遷を作成。作成年度の違う3種類の地形図を比較する事によって、町のインフラ発展を理解してもらう。
2. ダムの役割（治水・利水・その他）を豊平峡ダム・定山溪ダムの建設の背景を通して知ってもらう（札幌市の水道需給予想、昭和56水害等）。
3. いろいろな型式のダムが有ることを知ってもらう。特に豊平峡ダム、定山溪ダムの形を知ってもらう。

1. については地形図だけでは理解しがたいので、疑似体験として本物の航空写真を実体視してもらった。その他、実体視になじんでもらうために、定山溪の町並みや実体視しやすい建築物の写真を用いて実体視をしてもらった。

今回もパワーポイントと同じ資料を配布し、子ども達にも考えてもらいながら授業を進める形をとった。その中で定山溪周辺が社会的観点からどのように変化してきたかを地形図から読み取ってもらい、自分の町の変化を自分の力で気がついてもらった。今年の生徒たちには地形図判読が少々難しかったようだ。

また例年は身近な建築物の実体写真が好評であるが、何故か今年は通常の航空写真の方が好評であった。空中写真判読のセンスがあるかもしれない。その後、建設中の定山溪大橋（自分たちの通学路）が見える写真や、ダムの有無が確認できる新旧の写真を見たりして、生徒が航空写真に関心をもって授業を進めることができた。

生徒が12名もいたため、例年と異なり授業らしい風景となった。毎年思うことだが、定山溪の子どもたちはとても素直で、授業のやりがいを感じる。次年度以降の生徒数減少が見込まれているが、依頼がある限りサポート授業は続けたいと思っている。最後に、サポ

ートしていただいた方々、裏方で活動していただいた方々にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

(文責：人見 美哉)



授業風景（１） 山崎氏の軽快なトークによる授業風景



授業風景（２） 通常の航空写真が大人気！